

お相撲の話

相撲には得意の組み手があります。大相撲の大関日馬富士は右四つで横綱朝青龍は左四つです。ちなみに「右四つ」を「みぎよっつ」と読んであなたは相撲の勉強を一から始めてください。これは「みぎよつ」と読みます。

さて、この二人の取り組みは互いに自分に有利な組み手争いをしますので「けんか四つ」と言います。もう一人の横綱白鳳は右四つなので日馬富士との取り組みは争うことなく互いに仲良く右四つになれるので「合い四つ」と言います。

ときたまどっちの組み手でも相撲がとれるという器用者がいます。相手が右四つならこちらも争わずに右四つに、相手が左四つならこれも左四つになるという者です。相手に自分を合わせることができるととても平和主義な方です。ところが、この人を相撲界では「なまくら四つ」と呼ぶのです。

なぜこの器用者が「なまくら」なのでしょう。それは、勝負に対する厳しさにあります。けんか四つの二人は立ち合いの瞬間からさし手を争います。さし手の右左で勝負が決まるのです。一方「なまくら四つ」はさし手にこだわりませんから、立ち合いに相手ほどの緊張感はありません。「どっちでもいいや」という印象が「なまくら」と言われる所以です。

ところが、この「なまくら四つ」が本気を出したらどうでしょうか。相手が右四つなら、断固として「左四つ」で勝負を挑むのです。逆に相手が左四つなら敢えて「右四つ」になろうとするのです。その瞬間「なまくら四つ」は「けんか四つ」になるのです。

人生を相撲のような戦いに置き換えるつもりはありません。卒業生のみなさん、本校で蓄えた知識、力、心にさらに新たなものを高校生活の中で積み重ね、自分の「四つ」を確立して行ってください。

平成21年3月